

全体で共有すべき内容＝配布資料に記載すべき事項

【分科会 2】ファシリテーター：加納

東日本大震災における宮城県でのボランティア活動

【これまでの取組を通じて明らかになった課題（今後の課題も含む）について】

（要援護者の視点、行政とボランティアの連携、みなし仮設への支援など）

- これまでおよび継続的に支援をしていくにはどうしたらいいのか
 - ・ 財源：資金をどう集めるか、自分で集める、あるところから持ってくる
 - ・ 単発のボランティアが来るだけでは今のニーズに合わない。ニーズからボランティアを集めていく。
 - ・ ボランティアという言葉で一括りにしてしまうことの問題
 - ・ 専門職のボランティアのもつスキルを社会資源化して活用する
 - ・ アイコン的な赤帽活動、近隣の組織の力や、中間支援組織の役割

【今後の取組の展望（注目すべき視点、注目できる事例なども含む）】

- 今後災害に向けて
 - ・ 東日本大震災という大規模災害で、これまでの災害ボランティアセンターという一つのルールのなかでは機能しきらないということが明確になった
 - ・ 多様なセクターが多様な人を集めたりする方法論の中で、気仙沼の舞浜地区でのシャンティの活動。自治会を支えることで、災害ボランティアセンターのような機能をもった
 - ・ こういう例は大型災害に役立つのでは。直接プレーヤーになる場合と、後ろから支える災害のパターンと色分けできるようになったのでは。
 - ・ 絵本として子供たちに伝える活動。災害から学ぶ。学んでくれという人も多くいる。
 - ・ ニーズだけでくくれない何かがあるので、現場で学ぶ。ボランティアには今後起こるべき災害にアプローチしてもらいたい。
 - ・ ボランティアの経験が反映されたりすること。地元への還元。
 - ・ 中心は命を問い直すということ。
 - ・ いろいろなセクターがつながってもっと時間をかけて検証する機会を設けたい。